

先輩農業者が語る就農成功のカギ

～福岡県内認定農業者向けアンケート調査結果～

2025 年 7 月

日 本 政 策 金 融 公 庫

福岡支店 農林水産事業

【目的】

- 福岡県認定農業者組織連絡協議会と日本政策金融公庫は、これからの農業を担う新規就農者を対象にさまざまな支援を行っています。
- 「就農者の皆様にはできるだけ早く経営を軌道に乗せていただきたい。」という思いから、先輩農業者である県内の認定農業者の皆様にはアンケートを実施しました。就農から現在までの経営を振り返っていただき、就農成功のカギについて教えていただきました。

【アンケートの概要】

対象者	福岡県内認定農業者 205 人
調査期間	令和 6 年 11 月～令和 6 年 12 月
調査方法	郵送
回答率	51.7% (回答数 106 人、回答者の内訳は、以下グラフのとおり)

年齢構成

年齢代	割合
70代	3%
60代	21%
50代	36%
40代	27%
30代	13%

農業従事年数

農業従事年数	割合
～5年	8%
6年～	16%
11年～	41%
21年～	19%
31年～	16%

生産品目

(単位: 人)

生産品目	人数
水稲	27
イチゴ	21
果樹	11
ナス	4
茶	3
ブロッコリー	3
アスパラガス	3
ネギ	3
トマト	3
その他・未回答	28

アンケート結果からわかる『成功の4つのカギ』

アンケートの結果から、以下の4点が経営を早期に成長軌道に乗せるための『成功のカギ』であることがわかりました。

1 生産技術の習得P3

2 自己資金の準備P4

3 収支シミュレーションP5～6

4 地域の先輩農業者や仲間との付き合い...P6～7

1 生産技術の習得

【ポイント】

○就農を目指す人にとって重要なこととして、『技術習得』の回答が 57% (60 人)。

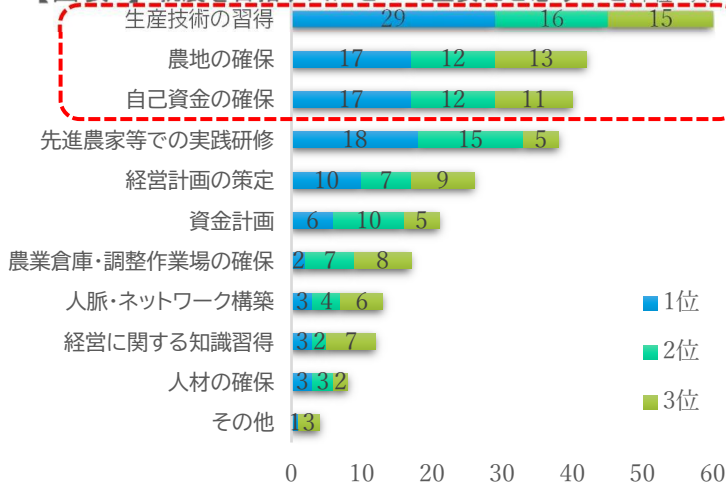
○次いで、『農地の確保』が 40% (42 人)、『自己資金の確保』が 38% (40 人)。【図表 1】

○就農前の研修期間はどの程度必要かとの質問に対して、2 年が 37% と最多。

○次いで、1 年が 32%、3 年が 27%。1 年以上との回答率は 100%。【図表 2】

Q 就農を目指す人にとって重要だと思うことは何か (上位 3 つまで選択可)

【図表 1】 就農を目指す人にとって重要だと思うこと (単位: 人)

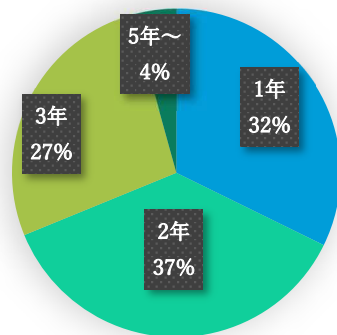


💡 生産技術を習得しなければ、農産物ができず、売る物がなければ、収入が得られません。

先輩農業者は自身の経営を振り返り、「生産技術の習得」が最も重要な『成功のカギ』と答えています。

Q 就農前の研修期間はどの程度必要だと思うか

【図表 2】 就農前の研修期間



💡 定植から収穫までの基本的技術習得、販売までの一連の流れを経験することが必要です。2 年以上の研修により「経験値」が増えることにより、変化に対応する応用力が加わり、成功確度を高めることにつながります。

【先輩農業経営者の声/技術習得編】

○いきなり独立を考えなくても、色々な農業法人で経験を積んでいくと良いと思う。

○まずはしっかり農業を取り組み、何年かは研修をして自分の栽培技術を思う存分に生かしていければやれると思います。

○指導される方の意見を聞く。その上で基本を元にいろいろ考えながら実践をしていく。

2 自己資金の準備

【ポイント】

○就農～5年目までの経営課題について、『資金・お金に関すること』が49%(52人)。

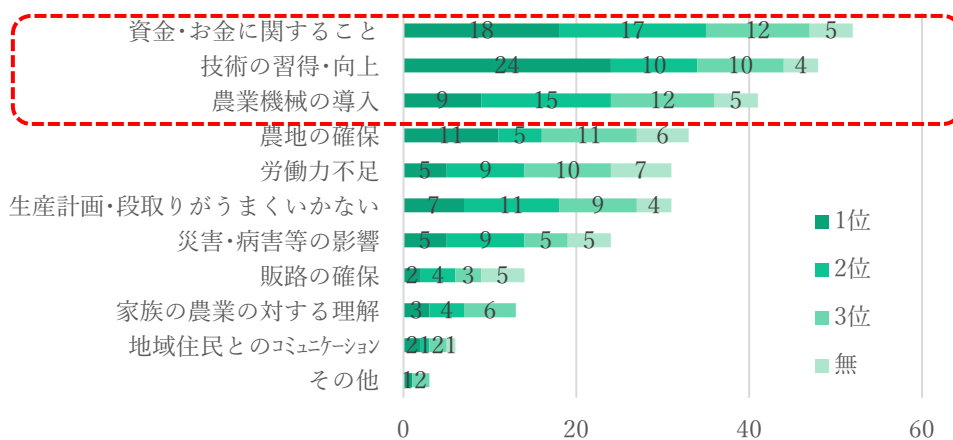
○次いで、技術習得45%(48人)、農業機械の購入が39%(41人)となった。【図表3】

○就農に必要な準備金は5百万円以上との回答が46%で最多。

○次いで3百万円以上が30%、1百万円以上が21%となった。【図表4】

Q 就農～5年目までの経営を振り返り、経営上の課題や苦労 (上位3つまで選択可)

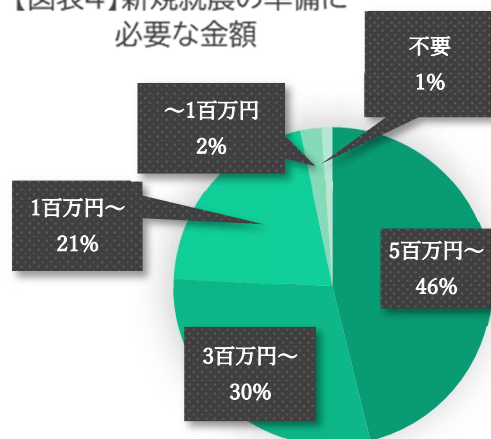
【図表3】就農～5年目の経営課題 (単位:人)



Q 就農から現在までの経営を振り返り、新規就農するために必要な準備金の額は

(次世代給付金、親の支援なしと想定)

【図表4】新規就農の準備に必要な金額



💡【自己資金の準備が必要な理由】

- 1 生産が軌道に乗るまでには時間を要するため、生活費確保が必要。
- 2 経済情勢、天候など外部環境の影響により計画が下振れする可能性大。
- 3 設備投資後、予期せぬ追加工事や物品購入が必要なケース少なくない。

【先輩農業経営者の声/自己資金編】

- 思いを叶えるためには準備をしっかりとってから就農すべし。初期は資金があればあるほど良い。
- 経済情勢や異常気象などで思うような売上げが見込めません。
- 軌道にのるまでの運転資金や生活資金を確保して臨むことが必須です。

3 収支シミュレーション

【ポイント】

○就農開始～5年目で資金繰りに困ったと回答した人の割合は53%と半数以上。要因として『初期投資の負担』が48%(27人)。『自己資金の準備不足』が46%(26人)。『売上計画未達』や『原価積算が不十分』など**当初の収支シミュレーションが十分でなかったことに起因する回答の割合が50%(28人)。**【図表6】

○資金繰りが順調であったと回答した人の割合は40%。順調であった要因は『親元就農で地盤あり』が50%(21人)。次いで『初期投資抑制』が21%(9人)であった。【図表5】

○資金繰りが困難であったと回答した56人に克服方法を聴取。【金融機関等からの借入】が39%と最多、次いで『家族等からの資金繰り支援』が20%、『十分な収支シミュレーション』が19%であった。【図表7】

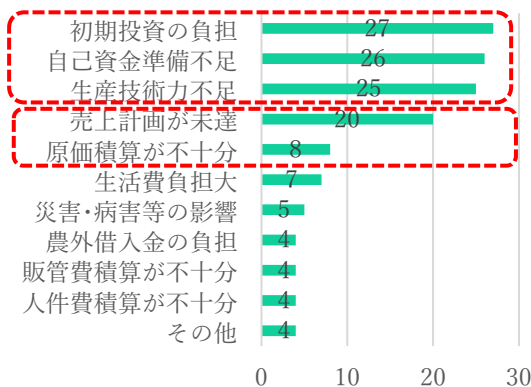
Q 就農開始～5年目までで資金繰りに困ったか (複数回答可)

→資金繰りが順調と回答した人数 42人、資金繰りが困難と回答した人数 56人

→以下、【図表5】と【図表6】にて要因を調査。

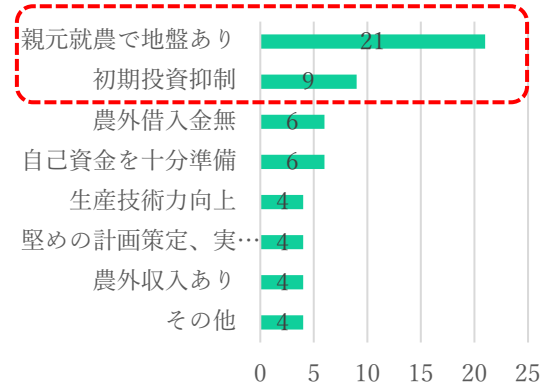
【図表6】資金繰りが困難だった要因(56人)

(単位:人)



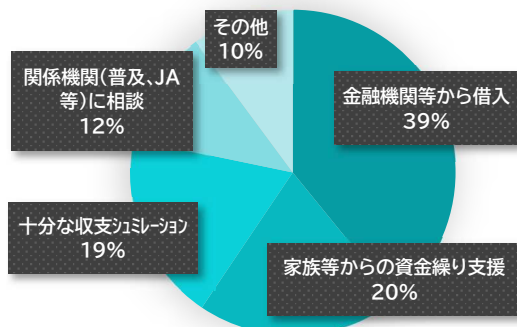
【図表5】資金繰りが順調だった要因(42人)

(単位:人)



Q 困難であった資金繰りの克服方法(資金繰りが困難だったと回答した56人の回答)

【図表7】困難だった資金繰りの克服方法(56人)



💡 親元就農で地盤がある方以外は、初期投資抑制が資金繰りにとって重要。初期投資が大きく借入金に依存した場合、返済負担が重く、資金繰りに支障をきたすリスクが高まります。資金繰りに余裕をもたせるためにも、中古物件の活用や補助金の活用等により借入金を抑えることが重要です。

【先輩農業経営者の声/収支シミュレーション編】

〇〇を1にする難しさがあります。1人ではなかなか前進するのは厳しい業種だと思います。営農するまでの資金や田、畑がなければ進みません。借り入れしても収量、単価が上がらなければ返済に回す金すら出ない可能性があります。高騰の波を受けて運転資金確保で精一杯になる可能性があります。そこで解決策としては、空きハウスの利用や後継者のいない農業者からの継承が必要だと思います。

〇価格高騰により経営はこれまで以上に考えてやらないと上手くいかないと思います。

〇新規就農(他地域からの移住)のため、本当に必要なのかわからず結構無駄な投資をしました。

〇経営計画につきます。自分で単価を決められる。プランA、B、Cをもてる経営を。

4 地域の先輩農業者や仲間との付き合い

【ポイント】

〇経営を軌道にのせるうえで参考になった情報源は、『先輩農業者や知人』が68%と最多。

〇次いで『支援団体や公的機関』が12%、『インターネット』が12%。【図表8】

〇また、頼りになった関係機関は『先輩農家・仲間』が36%と最多。

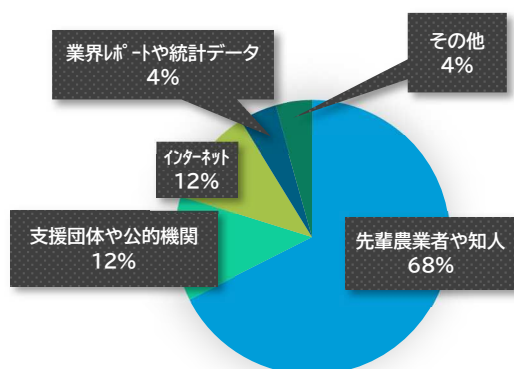
〇次いでJAが22%、普及センターが19%。【図表9】

Q 就農から5年目までの経営を振り返り、経営を軌道にのせるうえで最も参考になった情報源

Q 就農から5年目までの経営を振り返り、頼りになった関係機関(農業者も含む)

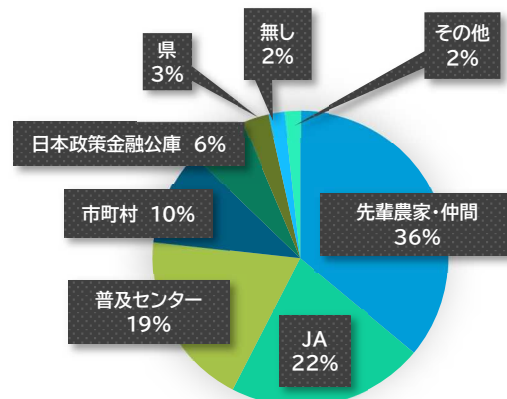
【図表8】

経営を軌道にのせる上で最も参考になった情報源



【図表9】

頼りになった関係機関



💡 企業で働く場合、困った時には、同僚、先輩、上司に相談し、解決策を探します。就農者にとって、なんでも相談できる相手は、先輩農業者や仲間です。先輩農業者や仲間を増やすためには、地域の方とのコミュニケーションが大事です。

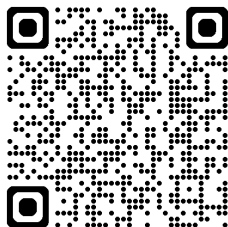
【先輩農業経営者の声/地域のつながり編】

- 指導される方の意見を聞く。その上で基本を元にいろいろ考えながら実践をしていく。
- 自分が何を作りたいか早めにみつける。それが分かれば一番収量を上げている人に教えてもらう方が近道。なるべく農業の仲間を多く作ると情報が色々に入る。一度失敗したことを絶対に繰り返さないこと。
- 新規就農で成功している人の話を聞くこと。研修先を決める前に希望している場所の情報を集めた方がいいと思う。
- 地域との交流を深め生産技術を高めるとともに、農地の確保、販路の開拓を進めるのが一番大切だと思う。
- 一人や自分達だけでは出来ません。相談出来る仲間や、地域の方々とのコミュニケーションを大事にして欲しいと思います。
- 困ったときに助けてくれる仲間づくりが大事。
- 就農先の地域でしっかりコミュニケーションを取って欲しい。

【参考】日本政策金融公庫の以下 URL もぜひ、ご覧ください。

○令和元年度認定新規就農者融資先フォローアップ調査結果報告書

https://www.jfc.go.jp/n/finance/syunou/pdf/followup_2019a.pdf



○新規就農の手引き

<https://www.jfc.go.jp/n/finance/syunou/tebiki.html>

【新たに農業経営を開始されるみなさまへ】

【営農技術編】



先輩農業経営者に就農～現在に至るまでの経験を踏まえ、農業経営者としての心得をインタビューしました。成功確度を上げるための必須事項を学びます。

《先輩経営者紹介》

有限会社 千広農産

代表 稲吉 広樹 さま

- ▶業・種 施設野菜（小松菜ほか）
- ▶面 積 39,000m²（ハウス）別途露地有
- ▶就農年 H12年
- ▶就農形態 親元就農



Q 農業経営者の心得を教えてください

農業経営者の心得 8則

～就農前の段取りで成功するか失敗するかの8割は決まる～

1. スモールスタートが基準

利益がどれだけ残る事業かを判断するため、撤退も視野にまずは小さく始めること

2. 最低5百万円は貯めてから開始

就農直後は支出が先行するため、最低でも2年分の運転資金及び生活費は自身で貯蓄してから始めること

3. 販売先の出口戦略を持つ

生産物がなければ営業できないではなく、顔繋ぎだけでも販売先との関係性を作ること

4. すべての人脈は経営に通ず

生産仲間、指導者、仕入先、販売先、自治会、PTA、同友会等の関わる全ての方々との人脈は、どこかで経営に繋がることから、地域行事や勉強会等へは積極的に参加すること

5. 簿記の知識は経営者として必須事項

肌感覚のどんぶり勘定ではなく、数字で経営の良し悪しを図ることで早め早めの対策が可能となる

6. 経営者に休みはないと思え

がむしゃらに働き、空いた時間では人脈作り、勉強等に費やすこと

7. 素直さは成功への近道

就農直後は、ヒト・モノ・カネ・情報の全てが乏しい。助言者の話を熱心に聞き、素直に実践することは成功への近道となる

8. 金を追うな、仕事を追え

地域の農業経営者の間で重要視されている標語。金勘定ばかりではなく、がむしゃらに働くことで仕事が付き、金は後からやってくる

情報提供

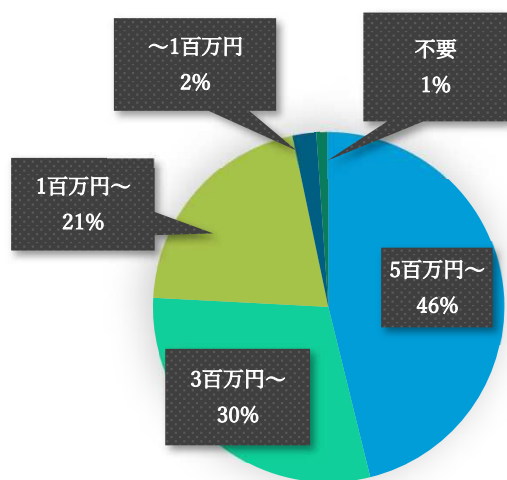
～表紙のインタビューに関連したお役立ち情報をお届け～

福岡県内の認定農業者にアンケートを実施しました。アンケートの一部をご紹介します。（福岡県認定農業者組織連絡協議会調べ）

【認定農業者とは】

市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画（農業経営改善計画）を市町村に提出し、認定を受けた農業者のことです。

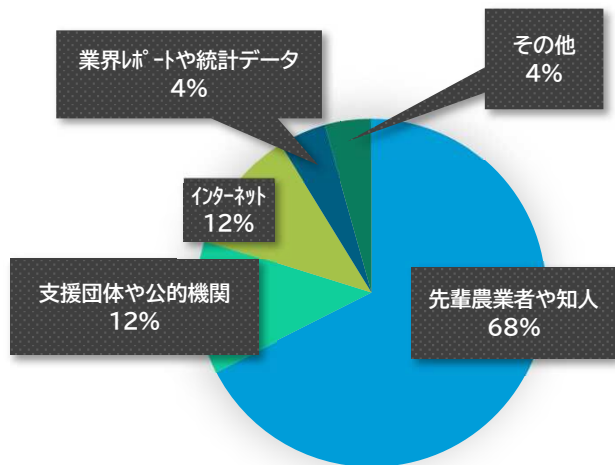
【質問】就農準備に必要な額(次世代給付金、親の支援なしと想定)は？



・就農に必要な準備金は5百万円以上との回答が46%で最多。次いで3百万円以上が30%、1百万円以上が21%となりました。

・表紙のインタビューのとおり、就農直後は支出が先行すること、生産が軌道に乗るまでには時間を要することから、予め生活費等の確保が必要です。

【質問】就農当初、経営を軌道にのせる上で最も参考になった情報源は？



・『先輩農家や知人』が68%と最多。次いで、支援団体や公的機関が12%、インターネットが12%となりました。

・困った時の相談できる先輩農業者や知人とのつながりは、経営をするうえで、重要です。

・表紙のインタビューのとおり、人脈づくりには、さまざまな行事や勉強会に参加するなど、自ら積極的に行動することが大切です。

その他お役立ち情報

『農業はじめてガイド』のご案内

福岡県農業の特徴から、就農までのみちすじ、先輩農業者の事例がまとめられている手引きです。各種就農相談窓口も記載されているので、福岡県で就農を希望される方は必見です。



こちらから
ご覧ください



先輩農業経営者に就農～現在に至るまでの経験を踏まえ、農業経営者としての心得をインタビューしました。成功確度を上げるための必須事項を学びます。

《先輩経営者紹介》

株式会社 安達農園

代表 安達 彩さま

- ▶業 種 施設野菜（いちご、なす）
- ▶面 積 4,100㎡（いちご高設）
261㎡（なす）
- ▶就農年 H23年
- ▶就農形態 新規
- ▶HP URL <https://www.adachinouen.com>



Q1 就農前の準備で最も力を入られたことは何ですか。

資金準備と情報収集です。資金については、手元資金を十分準備し、中古のハウスを使用することで、初期投資を極力抑え就農しました。

情報収集については、今と違い新規就農者が少なかったため、情報収集しようとしても「新規就農」が通じないこともありましたが、根気強く、市や農協等で情報収集することに時間を費やしました。

Q2 就農後の苦労話を教えてください。

就農後1～2年間は、収量が伸びず、試行錯誤していました。恵まれていたことに、土地をお借りしていた方が、もともといちごの生産者であったこと、普及センターの指導員の方も定期的に訪問していただき、技術を習得していき、収量を上げていくことができました。

Q3 就農を検討されている方へアドバイスをお願いします。

就農前の準備として、市や普及センター、農協等からの情報収集に時間をかけること、上手な人に教わると、収量がとれるものだと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、決して、他人任せにするのではなく、自身で考え、自身で努力する必要があると思います。

積極的に勉強会に参加し、地域とのつながりを大事にすることで、得られることがたくさんあります。

技術含め指導してもらう際には、謙虚な気持ちで話を聞き、実践することが、就農するうえで重要ではないかと思っています。

情報提供

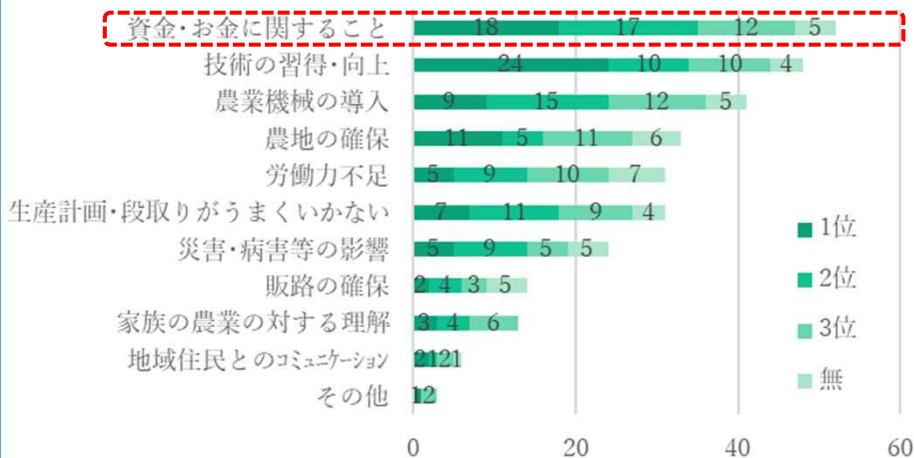
～表紙のインタビューに関連したお役立ち情報をお届け～

福岡県内の認定農業者にアンケートを実施しました。アンケートの一部をご紹介します。（福岡県認定農業者組織連絡協議会調べ）

【認定農業者とは】

市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画（農業経営改善計画）を市町村に提出し、認定を受けた農業者のことです。

【質問】就農～5年目の経営課題は？（上位3つまで選択可） （単位：人）

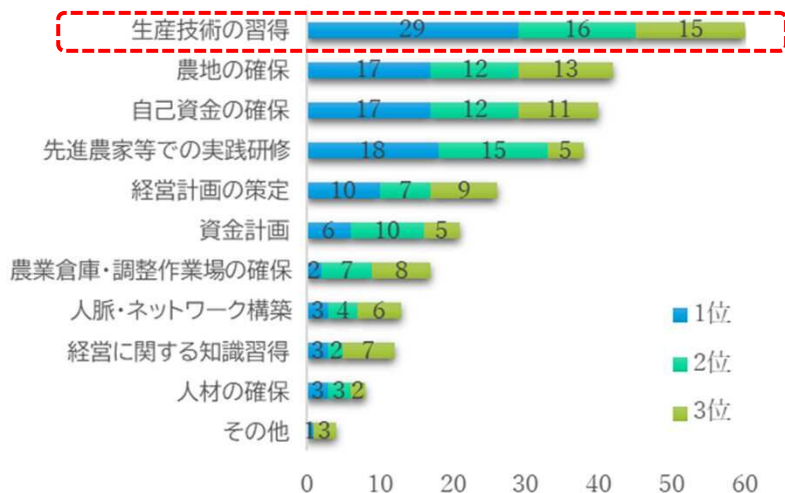


・就農直後の経営課題は、『資金・お金に関すること』が49%（52名）と多く、自己資金の準備が大切だということがわかりました。

・具体的な準備金の額（次世代給付金、親の支援なしと想定）については、5百万円以上との回答割合が46%で最多、次いで3百万円以上が30%でした。

・表紙のインタビューにもあり、自己資金の準備とともに中古のハウスや機械の導入等により初期投資を抑えることも大事です。

【質問】就農を目指す人にとって重要だと思うことは？（複数選択可） （単位：人）



・『技術習得』の回答が57%（60人）と多く、就農するうえで、最も重要な『成功のカギ』といえます。

・表紙のインタビューにもあり、他人任せではなく、自身で考え努力すること、指導を仰ぐ際には謙虚な気持ちで話を聞き、実践することで道が開けるのだといえます。

その他お役立ち情報

『農業はじめてガイド』のご案内

福岡県農業の特徴から、就農までのみちすじ、先輩農業者の事例がまとめられている手引きです。各種就農相談窓口も記載されているので、福岡県で就農を希望される方は必見です。



こちらから
ご覧ください



先輩農業経営者に就農～現在に至るまでの苦労話や経営に対する心構えをインタビューしました。就農にあたっての心構えを学びます。

《先輩経営者紹介》

株式会社 みずほファーム
取締役 石井 康太さま

- ▶業 種 稲作・麦・大豆
- ▶面 積 80ha
- ▶就農年 H23年
- ▶就農形態 親元就農



Q1 就農の経緯と現在の経営状況を教えてください。

父が稲作経営を行っていたため、中学生の頃から作業の手伝いをしていました。長男のため、いずれは父の農業を継承することを意識しており、自分が経営者になったときの糧となるよう、大学では経営学を学びました。

2012年に親元就農し、2013年に法人化。就農当初は45haの規模でしたが、積極的に地域の農地を引き受け、80haまで面積を拡大しました。

Q2 就農後の苦労話を教えてください。

親元就農の初年度、2台ある麦播種機のうち1台が故障し、45haの面積を1台で播種せざるを得ず苦労しました。それをきっかけにもっと効率の良い播種機がないかリサーチ。具体的にはSNSを活用し、工夫した経営を実践している先を見つけ質問。それでも解決しないときには、現地まで赴き、積極的に情報収集を行いました。結果、当社にとって理想的な播種機（九州内ではほぼ導入のない機種）を探し出すことができ、生産の効率化につながりました。

Q3 就農を検討されている方へアドバイスをお願いします。

1. 先輩農家や仲間とのつながりを積極的につくり、大切にすること

- ▶まずは、地域の青年部や4Hクラブなど農業者のコミュニティに飛び込みましょう。仲間をつくれば、補助金や機械など有益な情報交換ができます。

2. 就農前は地域や親の農業から離れた世界に飛び込み、視野を広げること

- ▶就農後は作業に追われ学ぶ時間が少なくなります。研修前に先進的な農業経営体での研修や経営関連の知識習得に時間を使うこともおすすめです。

3. 身の丈にあった設備投資を行うこと

- ▶昨今は外部環境の影響で経費や農業機械の価格が上昇しています。農業機械は高い買い物です。現在の経営規模や今後の収益見通し（経営面積の拡大見通し）などを踏まえて、慎重に購入を検討しましょう。

情報提供

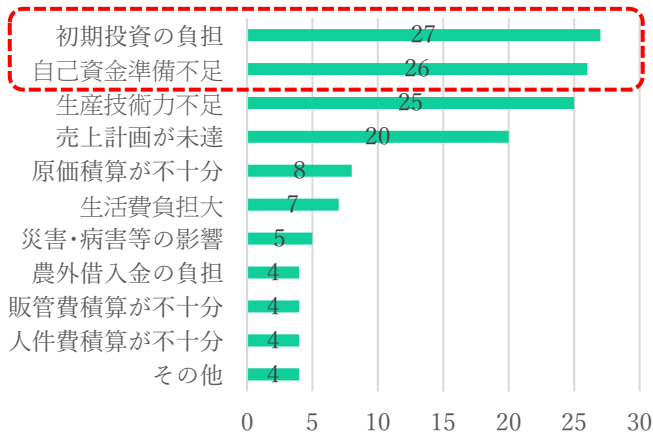
～表紙のインタビューに関連したお役立ち情報をお届け～

福岡県内の認定農業者にアンケートを実施しました。アンケートの一部をご紹介します。（福岡県認定農業者組織連絡協議会調べ）

【認定農業者とは】

市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画（農業経営改善計画）を市町村に提出し、認定を受けた農業者のことです。

【質問】就農当初、資金繰りが困難だった要因は？（単位：人）



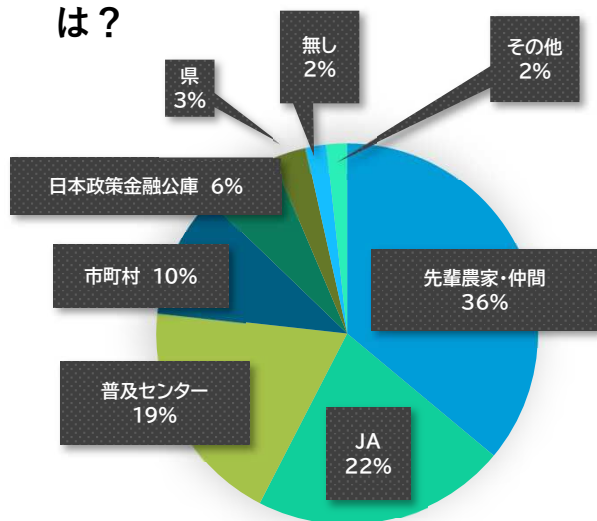
※資金繰りに困ったと回答した56人が回答（複数回答有）

・アンケート回答者106人のうち、資金繰りに困ったとの回答は56人でした。半数を超える方が資金繰りに苦労したことがわかりました。

・その要因を聞くと、『初期投資の負担』と回答した方が最多。次いで、『自己資金の準備不足』との回答でした。

・円滑な経営開始には、「中古ハウスの譲り受け」や「補助金の有効活用」などによる初期投資の抑制、自己資金の十分な準備などが大切といえます。

【質問】就農当初、頼りになった関係機関は？



・『先輩農家・仲間』の回答が36%と最多。次いで、JAが22%、普及センターが19%となりました。

・地域の活動へ参加したり、JA生産部会、青年部へ加入するなど、地域住民や他の農業者とのつながりを大切にしましょう。さまざまなことを相談できる心強い味方となります。

・表紙のインタビューのとおり、仲間をつくれれば、有益な情報入手も期待できます。

その他お役立ち情報

『農業はじめてガイド』のご案内

福岡県農業の特徴から、就農までのみちすじ、先輩農業者の事例がまとめられている手引きです。各種就農相談窓口も記載されているので、福岡県で就農を希望される方は必見です。



こちらから
ご覧ください

